

事業報告書（令和7年度）

事業名 岡山市立少年自然の家 ファミリー農園クラブ

団体名 岡山市立少年自然の家 ファミリー農園クラブ 担当者名 飯田 啓

※活動の様子がわかる写真と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

今年度は、13家族51名で行った。全体として一斉に集まるのは、令和7年5月25日（日）・7月20日（日）・9月21日（日）・11月9日（日）・12月7日（日）の5回とし、日帰り活動として実施計画を立てた。また、年間を通じて、ファミリースペース（家族の畑）に、家族ごとで都合のつく時間に来ていただき、野菜作り・収穫体験をした。

○第1回 令和7年5月25日（日）

【場所】自然の家・まやかみ農園

【参加対象者人数】12家族・46名

【活動内容等】

- ・自然の家に来所していただきファミリースペースの抽選を行い、その後農園に移動し、家族で野菜の種まきや苗付けを行った。
- ・まやかみ農園の方に、畝の作り方やシートの敷き方などを指導・助言をしていただいた。
- ・タマネギの収穫体験を行った。
- ・午後から、家族で野外炊事（カレー）を行った。

※当日参加できなかった家族は、6月8日に来所され、畑作りを行い、苗付けを行った。

○第2回 令和7年7月20日（日）

【場所】自然の家・まやかみ農園・桃園

【参加対象者・人数】12家族44名

【活動内容等】

- ・桃の収穫体験は、暑さを考慮して、9:30と11:00開始の2部制で行った。
- ・桃園では、まやかみ農園の方から収穫の仕方を聞き、実際に収穫体験を行った。なかなか市場には出てこない品種（やまと）の桃を収穫する機会となった。
- ・ファミリースペースでの活動を行った。（畑の手入れ・野菜の収穫など）

○第3回 令和7年9月21日（日）

【場所】自然の家・まやかみ農園・マスカットハウス

【参加対象者・人数】11家族41名

【活動内容等】

- ・移動の関係で、9:30出発のA班と11:00出発のB班の2つの班に分かれ、マス

カットの収穫とクラフトを交代しながら行った。

- ・マスカットハウスでは、まやかみ農園の方から「マスカット・オブ・アレキサンドリア」の歴史や津高地区での栽培収穫の様子、収穫の仕方や保存方法などを聞き、収穫体験を行った。
- ・クラフトは丸太を切り、コースター作りを行った。のこぎりを使ったことがない大人の方も多くおられ、よい経験になった。
- ・昼食を食堂でとり、午後からコースターの仕上げを行った。

○第4回 令和7年11月9日(日)

【場所】自然の家・まやかみ農園

【参加対象者・人数】4家族14名

【活動内容等】

- ・サトイモの収穫体験を行った。
- ・あいにくの雨だったので、サトイモを洗うのは少年自然の家の屋根があるクラフト場で行った。
- ・まやかみ農園の方から、保存の仕方や種芋も食べることができることなどを教えていただき、こいもをとったり水で洗ったりした。
- ・「焼き板作り」として竈で板を焼いた後、昼食で「カートンドック」を作ったり、焼き板を磨いたりした。(焼き板は、5回目のクラフトに使用する。)

○第5回 令和7年12月7日(日)

【場所】自然の家・まやかみ農園

【参加対象者・人数】10家族39名

【活動内容等】

- ・野菜(ダイコン・ジャガイモ・サトイモ・ミズナ・ホウレンソウ・ハツカダイコン)の収穫体験を行った。
- ・家族の参加人数相当の野菜が収穫できるように、まやかみ農園の方が作成した野菜収穫リストを参考に収穫体験を行った。
- ・まやかみ農園の方から、できのよい野菜の見極め方や収穫の仕方・保存方法について指導していただいた。
- ・ファミリースペースでの活動を行った。(野菜の収穫や畑の整備など)
- ・自然の家にて昼食後、クラフト活動として「クリスマスツリー作り」を行った。
- ・全体での活動が今年度最後になるので、アンケートを行い、活動を振り返っていただいた。

※第5回に参加できなかった家族には、後日アンケートを郵送した。

2. ESD の視点
<p>①事業を通じて、参加者にどのような気づきや意識・行動の変容があったか</p> <p>【アンケートより(原文のまま)】</p> <ul style="list-style-type: none">○子どもたちが苦手なものでも、自分たちで収穫した野菜なら食べることができ、食に対する大切さが学べたと思う。○自分で育てた野菜を楽しんで食べることができた。○育てて収穫して食べることで、食べものを大事にできた。○とれた野菜を友だちにおすそ分けできた。○子どもの中に何か発見があったようである。種から芽が出るのかとか聞かれることが増えた。○野菜を作られる過程を毎週見ることによって、普段、口にしている物を農家さんがどれだけ大変な思いで作られていることを知ることができ、食べる時に感謝の気持ちを持つようになった。○畑で収穫した野菜を食べることが、私も子どもも嬉しく感じた。○収穫しておいしくいただくまでに多くの時間や労力がかかることや、なかなかうまくいかないことを感じた。 <p>米の値段が高騰している現在、農業に関心をもっている方も多い反面、自分たちで野菜を育てたことがない方も多い。実際に野菜を育ててみて、苦労や大変さを感じたり、子どもたちの変容や気づきに目を細めたりと、家族として「食」に対する意識は高まったことを感じる。</p>
<p>②どのように学び合いを取り入れたか</p> <ul style="list-style-type: none">・年間通しての活動だが、全家族が集まるイベントを5回計画し、農業専門の講師をお願いした。・自分たちで栽培収穫するだけでなく、協力農園の果物や野菜の収穫を織り込むことで、興味を持ってもらったり知ってもらったりする場を設定した。・農業体験だけでなく、家族の活動として野外炊事やクラフト活動を行うなど交流することにより、家族同士の学びを共有しやすいようにした。実際に、穫れた野菜を交換されていることもあった。
<p>③どのような学びと実践を結び付ける工夫を行ったか</p> <ul style="list-style-type: none">・収穫の喜びが味わえるように、1回目は自分の畑の種まき・苗付けだけでなくタマネギの収穫体験を行った。・岡山の特産品である「桃」や「マスカット」の理解を深めるために果物の収穫体験を取り入れた。桃畑、マスカットハウスなど普段では入ることができない場所での活動を計画した。・普段は市場に出回らない規格外品等を収穫し料理してもらうことにより、味には違いがなくとれたてのおいしさを感じてもらった。・家族で食事を作り食べることがどんなに楽しいかということ、野外炊事等の活動を通して味わってもらった。

・端材や落ちている木の実や枯れ枝などもクラフトの材料になることに、活動を通じて味わってもらった。

3. 取組の成果（事業計画書に記載した事業の目的・目標をどのように達成できたか。事業を実施してどのような成果があったか。）

- ・全家族、これからも機会があれば、農作物を育てたり土に触れたりするなどの農業体験事業に参加したいと回答している。
- ・実際に畑で農作物を育てるという体験ができにくい環境の方にとっては、年間を通して自分たちが体験したことで農業や生産者に対する認識が大いに深まった。
- ・自分たちで野菜を作ることで苦手な野菜を克服したというご家族がおられた。
- ・自分たちが住んでいる岡山の桃やマスカットについて収穫するだけでなく、歴史や栽培方法・収穫の仕方など地元の特産物について認識を深めることができた。
- ・普段は、市場に出ないサトイモの種芋や規格外品などを収穫して、食すなど普段ではできないことを体験し、食材・食品に対する意識の変化があった方がおられた。
- ・家族で一緒に活動することは「楽しい」ということを、栽培・収穫活動、野外炊事やクラフト活動を通して味わうことができた。

4. 今後の課題と展望（事業がどのように岡山地域の ESD の取組と持続可能な社会づくりの発展・継続につながるか）

- ・「農業」や「食」に対する思いを高めるには、とてもよい取組だと考える。
- ・やってみようと気軽に思える活動で、新たな参加者も多く、栽培に興味をもつ人は増えている。
- ・手軽に、農業体験が実際にできるということで気軽に応募できる。ニーズが高いと言える。しかし、お借りしている畑のスペースや収穫体験を行う桃畑やマスカットハウスの活動の関係で、参加家族数が限られる。
- ・畑は耕された状態で準備されており、道具がなくても農園のものを借りることができるので、初めての家族でも活動しやすい。しかし、種をまいたり苗を植えたりする時期などアドバイスを受けたいことも多いようである。
- ・県外から引っ越してきた家族に対して、岡山市が行っている SDGs の取組を理解してもらうきっかけになっている。
- ・アンケートで「農作物を育てる楽しさや喜びを感じ取ることができましたか？」で「いいえ。」と答えられた方は、収穫物がカラスに食べられる等、自分が育てた野菜の収穫ができなかったそうである。やはり、収穫ができることが一番心に残ることなんだということを実感した。
- ・自宅からファミリースペースまでの道のりが長いとなかなか頻繁に活動できていない家族がある。自分のお家の近くに貸してもらえる畑がないか探されている参加家族もおられるので、岡山市内の休耕地をうまく活用できるようなシステムが構築できるとよいのではないかと思う。

(様式第8号)

令和7年度 ファミリー農園クラブ

第1回 ファミリースペースへの植え付け タマネギ収穫体験 野外炊事
5月25日



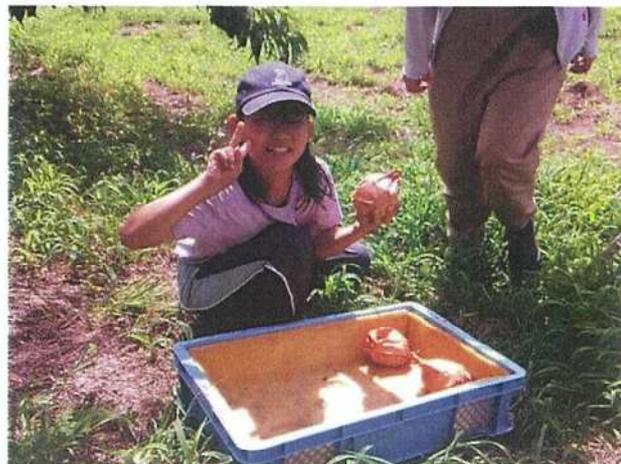
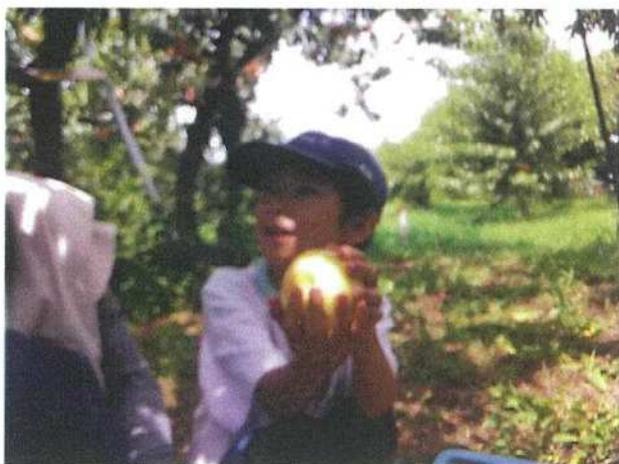
ファミリー農園クラブのスタートです。少年自然の家で、ファミリースペースの抽選をし、農園の方に移動しました。

まやかみ農園のスタッフと顔合わせをし、農園の使い方やタマネギの収穫方法・保存方法の説明を聞いた後、ファミリースペースの作業と収穫体験を行いました。初めて畑に入る人も多く、前日に降った雨でぬかるんだ土地に悪戦苦闘しながらも、畑の畝作りとタマネギの収穫体験を行うことができました。収穫体験では、小さいお子さんも大活躍。タマネギを抜くことができ、とてもうれしそうでした。家族で心地よい汗をかくことができました。

その後、少年自然の家に戻り、家族で協力し合いながら、野外炊事「カレー作り」に挑戦しました。2家族で一つの鍋で料理をしたので、仲よく談笑をしながら作り、おいしく食べることができました。野外炊事がきっかけとなり、交流が深まったご家族もありました。

第2回 桃の収穫体験 ファミリースペースの収穫

7月20日



第2回は、桃の収穫体験です。

少年自然の家からマイクロバスで移動し、まやかみ農園の桃園に着きました。初めて入る桃園には、様々な種類の桃の木が植えてありました。今回収穫したのは、市場に出回らない「やまと」という品種と早生の「なつごころ」という品種でした。例年になく生育が遅く開催が危ぶまれましたが、まやかみ農園の方のご協力で開催することができました。自分で桃をもぐ喜びを感じながら活動することができました。思わず笑顔の子どもたちです。

第4回 サトイモ収穫とクラフト活動（焼き板作り）

11月9日



第4回は、インフルエンザの流行もあり、参加家族が少なくなりました。さらに、あいにくの雨となり、畑から持ち帰ったサトイモはクラフト場で洗うこととなりました。

スーパーでは、サトイモの親芋は売ってはいませんが、まやかみ農園の方に、それも食することができるなどを教えてもらいながら、洗って子芋を取っていきました。

その後、薪割りをして火をおこしました。火が大きくなってから、板を焼きました。この焼き板を使って、第5回では、クリスマスツリーを作る計画です。

板が焼けたあとは、カートンドック作りに挑戦です。見事に焼き上がり、スープと一緒に昼食を取りました。お家でもできそうです。

最後に焼き板を磨いて、つやのある焼き板が完成しました。

第5回 冬野菜の収穫とクラフト活動（クリスマスツリー作り）

12月7日



まやかみ農園の方が、家族の人数に合わせた収穫リストをつけたかごやコンテナを用意してくださいました。

それをもとに、3グループに分かれてローテーションで、ダイコン・サトイモ・ジャガイモ・ミズナ・ハウレンソウ・ハツカダイコンなどを収穫しました。ダイコンは、家族で力を合わせないと抜けないほどでした。いろいろな野菜を収穫できて、みなさん大変喜ばれていました。

食堂で食事をとったあと、さくさくホールに移動してクラフト活動（クリスマスツリー作り）を行いました。一人一つのツリーを作りました。材料は、山に落ちているものを有効活用したものです。

最後に、家族ごとにファミリー農園クラブの感想を言ってもらいました。よい経験になったようです。

〈年間を通じて〉

年5回のイベントだけでなく、常時活動として、ファミリースペースに多くの家族が休みを利用して、野菜の種まきや苗の植え付け、水やり、収穫にいられていました。なかには、鳥に食べられるなどした関係で収穫できなかった家族もおられたようですが、多くの家族は、自分たちが育てた旬の野菜を食すことができました。仲よくなった家族同士、互いの畑に水やりをしたり、野菜のおすそわけをしたりするなど交流を深めた家族があったようです。



また、畑自体が安全な場所にあるので、野菜の世話以外に、虫取りに来られた家族もあったそうですし、外に出るきっかけにもなっているとも言われていました。

ファミリースペースは、2

月末まで使用できますので、これから冬野菜の収穫を迎えます。

参加家族にとって、ファミリー農園クラブの活動は、「農業」や「食」の関心を深めることができていると思います。そして、家族のふれあいの場にもなっていると思います。